

企画趣旨

明治・大正・昭和・平成にわたる約1世紀を、向日的に生き抜いた作家宇野千代。自由で広やかな文化とそれを押し込める戦争とが交叉する地点で、彼女は何を選択し表現したのか。自身の恋愛に妥協なく、モダン・ガールの先端を行き、旧式の女性像に縛られた周囲の女性たちに強い影響を与えたありようは、宇野自身の生きざまをめぐるさまざまな言説によって、今日においてもなお多彩な力を放っている。

本企画では特に、華やかな美しさを体現し啓蒙的な役割を担ったモード誌『スタイル』を創刊した宇野と、押し寄せてくる戦時体制との向き合いに焦点をあて、時代を映し、また、越境する、文化の普遍的なあり方を反照する。

12月6日(日)に主催する公開講演会「モード誌『スタイル』と宇野千代——モダニズムの時代から戦時下へ」では、国内外にわたるモダニズム研究の第一人者、和田博文東洋大学名誉教授を招き、最新の研究成果(『モード誌と戦争—宇野千代が『スタイル』で描いた夢』2025.3 平凡社)をとおして、困難な時代の中で、人々が潤いをみずから創出し、保持しながら生きてゆくことの様相と意義を照らす。

9月28日(月)からは、宇野千代を主人公とした「NHK 朝の連続ドラマ小説・ブラッサム」が放映されており、さらには、愛知県西尾市出身の文豪尾崎士郎が伴侶であったことも加えて、地域への関心喚起とともに、不安と困難に拮抗する、しなやかで美しく、活気あるひとの生き方や文化へのいざないとしたい。

愛知県立大学「不安と生の研究会」

■「不安と生の研究会」は10周年を迎えました。

10周年記念企画「ひろがる、愉しみ。十年目の「不安」と「生」の模様を、
本学HPにて公開しています。ぜひ、ご覧ください。

「愛知県立大学 「不安と生の研究会」 10周年記念動画」

<https://www.youtube.com/@AichiPrefecturalUniv/videos>



不安と生の研究会